

「近い水」が持つ現代的価値に関する研究

-南会津郡下郷町大内宿を対象として-

Research on the contemporary value of the "Adjacent water"

- Targeting Ouchi-juku in Shimogo Town, Minami Aizu -

○勝俣碧¹, 井本佐保里²*Aoi Katsumata¹, Saori Imoto²

Abstract: The purpose of this study is to clarify the value of "adjacent water". This study targets Ouchi-juku. According to interviews with 11 people, the use of waterways is decreasing and they are changing to tourism, so it's hard to say that it's an infrastructure necessary for daily life. But, the waterway is a weapon as a tourist destination and is indispensable for the survival of Ouchi-juku.

1. 背景と目的

水辺は周囲の自然や街並みと人びとの暮らしと一体となってその地域の文化や風土をつくってきた。しかし、1957年の水道法制定などによって上下水道やダム建設が進み、遠隔地（遠い水）に生活用水を求めざるを得なくなった^[1]。時代とともに変化してきた「近い水」の使われ方や意識を明らかにすることで、その現代的価値を見出すことを目的とする。尚、本項では水路や井戸、湧き水等を「近い水」と定義する。

2. 調査概要

2-1 調査対象地

南会津郡下郷町大字大内に位置する大内宿を対象とする。大内宿は、1643年に会津藩主として赴任した保科正之による宿駅整備で形成され、同時に水路も整備されたとされる。水路は昔、道路中央を流れていたが、1886年に両側に分けられた^[2]。1967年に相沢韶夫によって大内宿の魅力が発見され、保存の必要が報告されたが、1973年の大川ダム建設に伴い、近代化に向かうようになった。1981年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。現在は茅葺屋根33戸を含む43戸が、中心道路に面して建っている^[3]。

2-2 調査方法

令和3年7月13-19日に、11名の住民に対し、水路の使われ方の変遷についてインタビューを行った。

3 大内宿の民家と水文化

水に関わるインフラ整備が民家の間取りに変化をもたらした事例Hを示す(Fig.1)。ダム建設職人のため、表座敷と部屋に厨房と食堂を作り、床の一部をコンクリートに変更し、1978年に食堂を始めた。1989年に景観のためにコンクリートの床を畳に戻し、観光客用に食堂を広げた。2005年に居住空間不足のため、住居を

増築した。

1965年の水道開設前は、水路を生活用水全般に使用し、勝手の井戸を飲水とトイレに使用していた。水道開設後、水路は野菜の洗浄程度の使用となり、井戸水はトイレに使用していた。1980年頃、観光用に水路にイワナを入れ始めた。1990年頃に水質が悪化し、井戸に蓋をしたが、2011年頃、外に新しい井戸を掘り、イワナの生簀に利用し始めた。

4. 近い水の使われ方と価値の変遷

4-1 「近い水」の用途の変遷(Fig.2)

時代の変化に伴う「近い水」の用途の変遷を示す。

- ①水道開設前(-1965)：水路は、洗顔や歯磨き、米研ぎなどの生活用水全般と防火用水に使用されていた。また、10件中7件が井戸を持ち、多くで飲水に利用されていた(B,C,E,F,H)。小学校分校の体育館裏の「清水」という湧き水を飲み水に使う家もあった(C,D)。
- ②水道開設後(1965-1981)：水道開設により水路は防火用水と野菜の洗浄(A,B,C,D,F,H)程度の使用となった。井戸はトイレ(B,G,H)や風呂水(B)に利用されていた。
- ③伝建地区選定後(1981-)：観光地化により水路にイワナを入れ始めた(D,H,J)が、水路が汚れたため禁止する事が決められた。また、野菜や飲料等も冷やしていた(A,B,C,D,E,G,H,I)が、保健所の指導で入れなくなった。井戸水は、洗い物や消雪(D)、トイレ(B,D)に利用された。防火設備が整ったことで防火用水としての役割は薄れた。

4-2 現在の「近い水」の用途

水路は、打ち水(全世帯)、消雪(A,B,C,E,F,G,H,I)、野菜の洗浄(A,B,C,D,F,H)、草木の水やり(B,C,D,F,I,J)、拭き掃除(A,D,E)等に使用されている。井戸は3件が所有し、トイレ(B,D)や生簀(H)に利用している。

4-3 水路への意識(Fig.2)

防火設備が整ったことで防火用水としての役割は薄れたが、防火上大切だという意識が未だに根付いている(Fig.3 赤字). また、使い勝手が良く(Fig.3 青字)、音が癒しを提供している(Fig.3 緑字)との発言も聞かれた。観光資源として価値があることも認識されている(Fig.3 橙色)。

5. まとめ

用途は減少し、生活用水から観光用途に変わってき

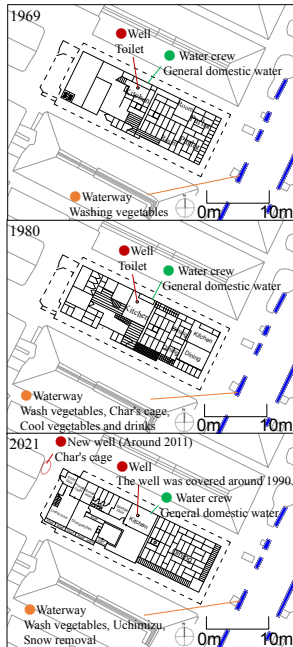


Figure 1. Change of the plan of case H

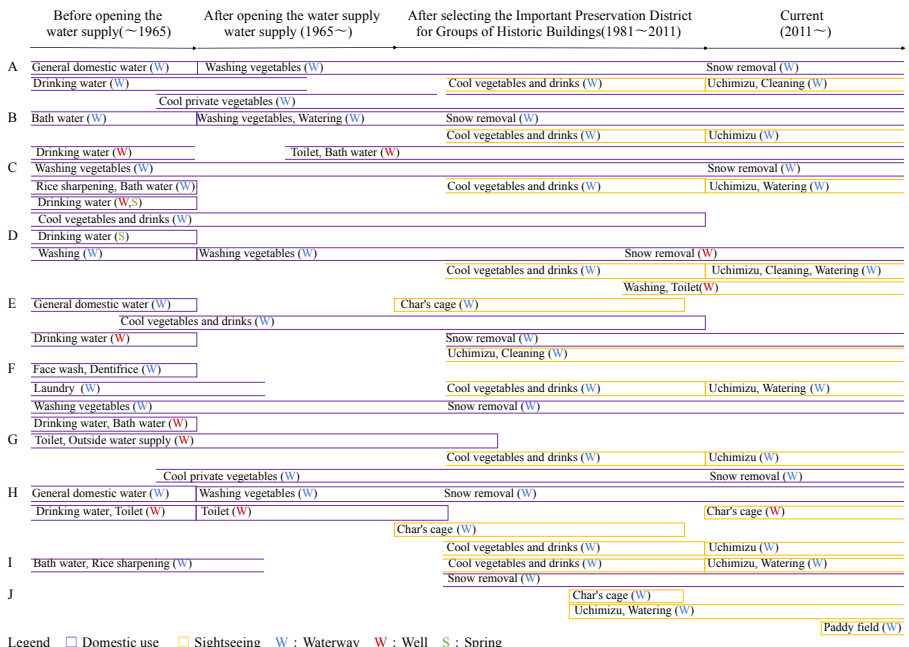


Figure 2. Transition of usage of adjacent water

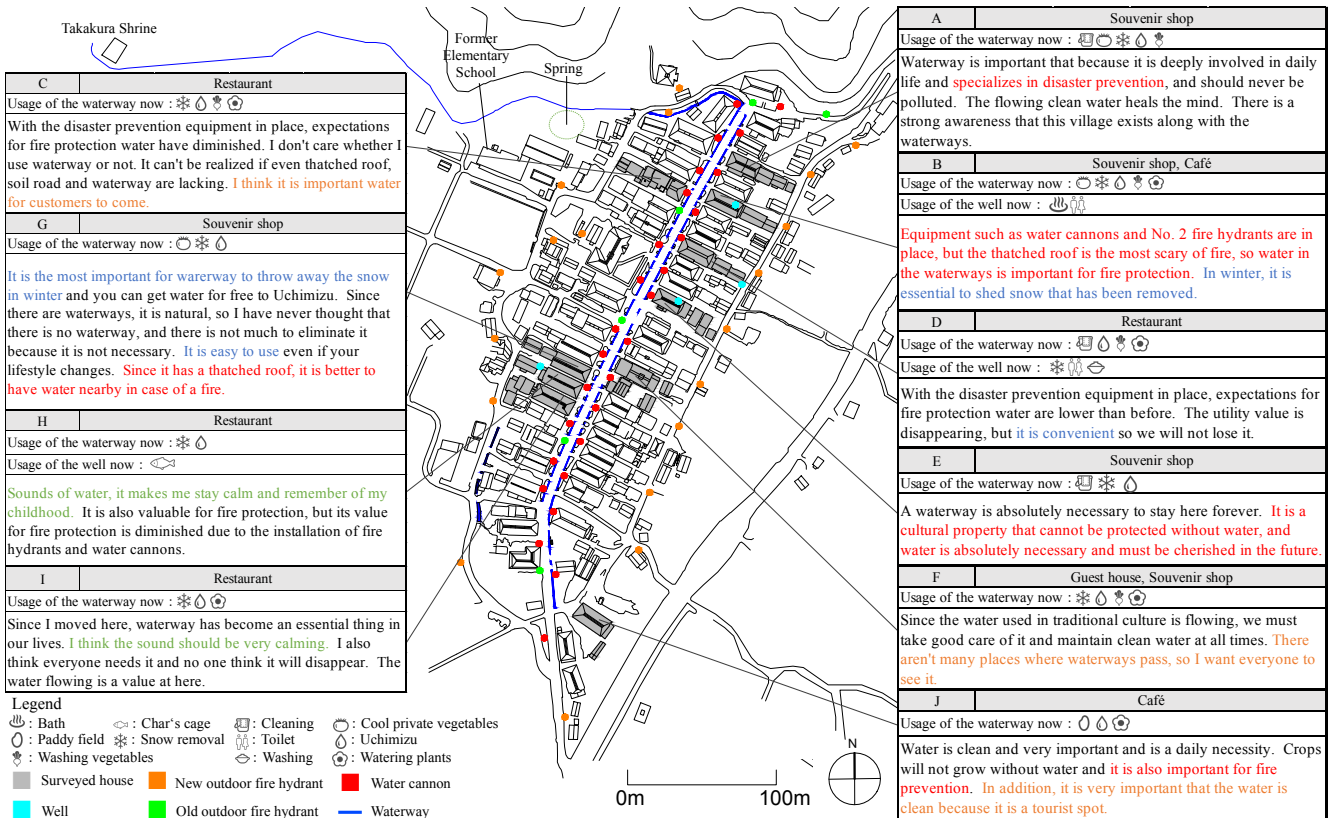


Figure 3. Map of Ouchi-juku and the recognition of the value of waterways of residents